

～ 親子で理科を楽しもう ～

平成 21 年 4 月 13 日

## ～ つくしんぼ ～

つくしんぼが顔を出し、いよいよ春本番！という感じです。

「つくしんぼって知ってる？」

「知ってるよ。」

「あれは動物、それとも植物？」

「植物でしょう。」

「そうだよねえ。」

「じゃあ、植物のどの部分かな？」

「え…、ええっ(@o@;) 枝…かな。」

「……。」

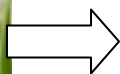
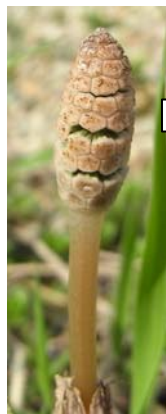


さて、つくしんぼとは何物なのか。ツクシとはシダ植物の仲間の「スギナ」の一部なのです。もう少し季節が進むと、つくしが生えていたまわりに緑色のスギナが生えてきます。ツクシとスギナは地下茎でつながっていて、土の中に広がっていて、春にでる茶色いツクシとそのあとに出る緑色のスギナはそれぞれ役割が違います。

ツクシは孢子茎や孢子体と呼ばれ、その穂の部分から孢子を放出します。スギナは栄養茎と呼ばれ、その緑色の葉で光合成を行います。つまり、ツクシはスギナの繁殖器官なのです（花のようなもの）。

土からでできたばかりのツクシ（写真①）は穂ががっちり隙間無く固まっています。茎も袴で覆われ、とても丈夫にできています。こうでなくては硬い土を突き破って出てはこられないでしょう。その後、袴（写真②）と袴の間が伸びて背が高くなります。より遠くに孢子を飛ばすのに都合がよいからでしょうか。やがて穂が熟してくると、少しずつブロック状に割れてきて、最後には大きく割れて孢子を放出します。

今のツクシはまだ早いですが、もう少したって穂が黒っぽくなった頃につんつんしてみてください。粉のようなものが落ちて飛ぶのが分かるでしょう。これがスギナの次の命です。顕微鏡でみると丸いつぶから腕が2本でているのが見られますよ。



①



②

②

「あ、つくしんぼね」とただ通り過ぎず、ちょっと足を止めて、ツクシとお話してみませんか。